

2017年度ミャンマー活動報告書

期 間：2017年8月14日～17日

場 所：ヤンゴン、マンダレー

参加者：小久保 謙一（国際委員会）、宮本 照彦（国際委員会）、張 同輝（国際委員会）、齋藤 慎（国際委員会）、矢部 広樹（国際委員会）、喜屋武 英文（ハートライフ病院）、前田 兼徳（前田医院）、中西 由美（長崎大学）、Thet Thet Lwin（北里大学）、佐藤 幸博（板橋中央総合病院）

われわれは、2017年8月に血液浄化技術学会国際委員会としてミャンマーに超音波診断装置を持ち込み、初めて透析患者のバスキュラーアクセス（VA）評価を行った。

VAに関する取り組みは、2016年8月に Yangon Specialty Hospital を訪問したときの VA モニタリングが最初であった。これをきっかけに超音波診断装置を用いた VA 評価をミャンマーで試みる構想が動き出した。

VA エコーは、ヤンゴン市とマンダレー市の二つの透析施設で行うことができた。Yangon Specialty Hospital では、腎臓内科医や放射線科医など、多くの見学者に囲まれながら透析室で行い、この様子は別室にも中継された。Mandalay General Hospital でも多くの参加者のもと会議室で行われた。

穿刺ミスや脱血不良の原因について情報提供することができ、治療方針について現地の医師と症例ごとにディスカッションが行われた。

ミャンマーでは PTA デバイスがなく、エコーを用いた VA 機能評価を行っても選択できる治療は限定される。しかし、①VA 血管の状態確認、②穿刺部位を決定するための情報、③血液量の確認、④術後の穿刺開始時期の決定、⑤VA 手術に必要な情報収集、⑥エコーガイド下穿刺など、ミャンマーにおいても超音波診断装置が VA 管理に活用できることを確認できた。

このほか、エコー下穿刺の体験、ワークショップの開催、透析液の水質・濃度チェックを実施した。

